

ADVANCE

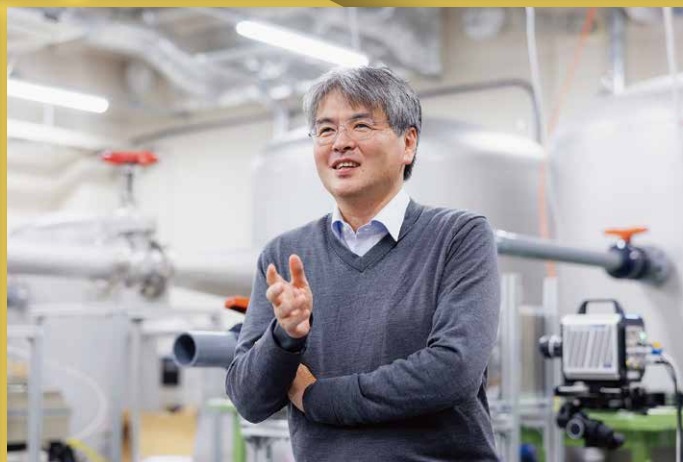
TOYOTA TECHNOLOGICAL INSTITUTE

豊田工業大学広報誌

vol.

117

FEBRUARY 2024



CONTENTS

学長年頭所感	02,03
豊田工業大学シカゴ校 開学20周年	04,05
研究最前線~教員編~	06
NEWS FILE	07,08
人事紹介	08

SCHEDULE 行事予定 (1月~4月)

入試情報

- 2月13日 2024年度学部一般入試(本学独自試験)
- 2月22日 2024年度入試 合格発表

学事

- 1月29日~ 学外実習I (~3/3)
- 1月29日~ 学外実習II・III (~3/10)
- 2月5日~7日 学部論文発表会
- 2月8日~10日 修士論文発表会
- 3月15日 卒業式・修了式
- 4月1日 入学式

イベント

- 3月6日 次世代文明センターシンポジウム
- 3月8日 半導体プロセス実習・講習会

学長年頭所感

豊田工業大学 学長
保立 和夫



令和6年、辰の年が始まり、ひと月が経ちました。豊田工業大学では、本年も学生の皆さんならびに教職員の皆さんの全員で学修活動と研究活動においてさらなる活性化を図るべく、努力して参りたいと思います。皆さま方におかれましては、引き続きのご支援とご鞭撻をどうぞ宜しくお願い申し上げます。

昨年は、本学にとって忙しい1年でした。私立大学では、7年に一度外部の評価機関によって、高等教育機関としての適格性に関する評価を受けることとなっております。令和5年度は、その「認証評価」の受審年度でありました。また、本学では、15年先を見据えた「長期ビジョン」を策定して5年毎の「中期プラン」を立案し、諸活動の改善を図っております。本年4月は新たな15年が開始される節目として、今年度は「新ビジョン」取りまとめの年でもありました。教職員の皆さんには、これらに関して多くの資料を作成して頂くなど、沢山の時間を割いて頂きました。有難うございます。

「認証評価」では、昨年度末、担当機関宛に活動報告書を提出しておりました。本年度は、その内容に関するお問い合わせに書面でお答えするとともに、本学にて直接ヒアリングをお受けする場面もありました。そこでは、評価ご担当の先生方から貴重なご意見を頂くとともに、本学の特徴や諸活動についてのご理解も深めて頂いたものと考えております。

「長期ビジョン」のとりまとめにおきましては、分野毎にご依頼申し上げた学外の学術アドバイザーの先生方や、学校法人トヨタ学園の理事会・評議員会の皆さま方へ、新ビジョンの内容についてご説明申し上げ、様々な貴重なご意見を頂きました。そして、本稿執筆時現在、新ビジョンの最終とりまとめを進めております。本ビジョンに関しては、主に「学修活動」と「研究活動」また「人材育成」の在り方について検討して参りました。ここでは、「論理的思考力」や「創造力」また「人間力」の育成などが、キーワードとなっています。

さて、昨年度の教育・研究活動を少々振り返ってみます。本学では、令和4年4月より「モノづくり志向型データサイエンスAI教育プログラム」を、学部教育において構成・実施してきました。これは、文部科学省から全国の大学等へ推奨されたプログラムの具体化でしたが、昨年その「リテラシーレベル」及び「応用基礎レベル」において、文部科学省の認定を受けることができました。特に、「応用基礎レベル」では東海4県の私立大学において初の認定校となりました。また、Times Higher Education (THE) 社の世界ランキングでは、国内大学で24位(同位校複数)に位置付けられました。

新型コロナウイルス感染症の事情が改善した昨年には、「天樹祭」でたこ焼きのお店も出せて、通常に近い開催ができました。また、学生の皆さんの海外派遣ならびに

連携校の皆さんの研究インターンやサマープログラムでの受け入れなども通常に戻ってきました。しかし、このところ感染拡大も見えていますので、引き続き気を引き締めて対応する必要があると思っております。

さて、世界では、複数の地域において、戦禍は終息するどころか拡大し続けています。国内では、政治的にも経済的にも、不安定な場面が続いています。学術や大学に直接関わる懸念事項も見えています。そのような中にあるからこそ、大学には、高等教育機関としての本来の役割をしっかりと再認識し、それを果たしてゆく必要性が高まっていると感じています。

さて、大学は社会の中で「特徴ある組織」です。まず、大学は学生の皆さんに「学位」を授けることができる機能を有した唯一の組織です。学士号、修士号、博士号の各学位は個人に授与されるものですから、そのための卒業論文、修士論文、博士論文の研究テーマは、個人に特化させたものでないといけません。ここで、教員は、勿論、積極的に指導しますし、先輩や同僚とは相互に支援し合います。しかし、学位の為の研究テーマでは、ひとりが主演者であって教員や仲間は助演者なのです。つまり、企業や国の研究機関とは本質的に異なる「特徴ある研究機関」なのです。また、大学は、「学問の自由は、これを保障する」と簡潔に書かれた憲法23条を具現化する責任を負った組織でもあります。

そして、大学の研究は、元来2つの側面を持ちます。ひとつは「研究成果」を社会に提供するという側面。もうひとつは、「人材育成」のための仕組みとしての側面です。学生の皆さんは、成果を追求する中で、失敗し、這い上がり、成功し、論文を書き、発表する、等々の体験から、専門的な知識と理解、論理的思考力に加えて、忍耐力や思いやり、自己肯定感や主体性、等々も涵養してゆきます。「学修」においても、理解を追求する苦労の中で、様々な「汎用力」も身に付けてゆきます。加えて、学修と研究活動で獲得した「理解の体系的な束」は、時代に先ずる「創造力」や「発明力」を培う「源泉」ともなっているのです。「人」は種々の多くの経験を積む中で育つてゆく、と言われます。これは、正に真実です。

それらの中で、大学の主たるミッションによる、前述したような成長も、極めて重要なファクターです。

大学は、学生の皆さんによるこれらの活動を支えるために、研究者であるとともに教育者でもある「アカデミア」と呼ばれる方々を多く擁している訳です。

アドバンスの前回号では、「多様性の尊重」と「その有用性」について述べさせて頂きました。その中で、「多様性の源泉は「自らの考えを持ち行動できる」個人ですが、そういった個人が集まった組織体も社会において多様性を発現する要素です」と述べました。本稿で前述しましたように、大学は社会の中で「特徴ある組織」です。したがって、社会の中でその他の役割を担った組織との間で、組織という「粒度」での多様性の発現を担っている訳です。個々人との多様性の尊重は、「人権の尊重」と等価ですので、理屈抜きに重要です。そして、個々人の多様性の尊重は、本来的に社会の安定と発展をも促してくれるものです。同様に、社会を構成する様々な組織同士の「多様性」も尊重されるべきです。その相互の尊重は、やはり社会の安定と発展を促してくれるという意味においても、極めて重要です。

本学は、大学という「特徴ある組織」としての特徴をさらに活性化して「独自性」も高め、社会における「多様性」の発現とその尊重による社会の活力向上に貢献したいと願っております。

豊田工業大学は、トヨタ自動車の社会貢献活動の一環として、1981年に開学しました。以来40余年に亘りご支援を続けてくださるトヨタ自動車ならびにご関連の皆さま方に感謝しつつ、認証評価に関連して頂戴するご意見を十分に勘案すると同時に、新たなビジョンを羅針盤として、令和6年も、本学の自由で闊達な教育と研究の活動をさらに活性化して参ります。

本学は、学部1年生の入学定員100名という小規模な大学ですが、その「山椒は小粒でもピリ辛い」存在感はさらに高めてゆけると信じています。これを実現するべく、精一杯、努力を積み重ねてゆく所存です。本年も、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

豊田工業大学シカゴ校 Toyota Technological Institute at Chicago (TTIC) 開学20周年



TTICの概要

場所	シカゴ大学構内 サウス・ケンウッド・ビルディング3～5階
形態	本学との連携大学院大学、米国の大学としてイリノイ州認可を申請・取得 2009年秋、アクレディテーション協会の認証評価を取得
研究領域	コンピュータサイエンス基礎 (情報科学基礎理論、機械学習理論、ロボティクス、 コンピュータビジョン、音声および自然言語処理、計算生物学) 教員数約25名 学生数約40名
連携協力	【本学】共同研究、教員の交流、留学生派遣・受け入れ 【シカゴ大学】共同研究、単位互換、施設提供、運営協力



TTIC ターク学長



TTICグリムソン理事長 (MIT副学長)



シカゴ大学 アリヴァサス学長

本学の姉妹校であるTTICが開学20周年を迎えました。

豊田工業大学シカゴ校 (TTIC) は、情報基礎理論分野の博士課程に特化して、シカゴ大学キャンパス内に本学が2003年に設立した大学院大学です。その後、米国高等教育の教育機関としての認証を得て、本学とは姉妹校として連携を深めています。シカゴ大学とも連携して研究教育を推進し、現在では機械学習理論の分野で全米トップクラスの評価を受けています。本学では協定留学

制度を設けるほか、学部卒業生の進学先としても推奨しています。

開学20周年を記念した祝賀会と20周年記念学術シンポジウムが、11月8日～10日にかけて、現地シカゴにて開催され、本学からは増田義彦理事長はじめ保立和夫学長およびTTICに縁のある関係者が招待されました。祝賀会にはTTIC初代理事長である故豊田達郎 (本学二代目理事長) 氏の夫人やTTIC教職員、卒業生、理事、シカゴ大学関係者など約100名が一堂に会し、20周年



創立20周年を記念した祝賀会にて本学関係者

の節目の年を祝いました。

TTICと豊田工業大学とのつながり～開学の経緯

TTICの始まりは1995年に豊田工業大学が博士課程を設置した頃、コンピュータサイエンスに注目し、その専門課程の設立を検討しはじめた時から歴史が動き出しました。当時は未だ日本でコンピュータサイエンスの専門課程設置が難しく、優秀な教員の確保に苦慮して、シカゴ大学から協力を受けて同大学のキャンパス内にコンピュータサイエンス専攻の大学院大学を創設するとのがり組みが2001年に固まりました。その後、トヨタ自動車(株)と豊田工業大学からの基金により財政基盤を

確立し、教育機関としての活動が2003年9月から始まりました。2009年には高等教育機関認定を取得して博士の認定ができる大学院大学となりました。ここに至るには、故永澤満元豊田工業大学学長・初代TTIC学長をはじめとする当時の人々の多大なご尽力とシカゴ大学のご理解があったからこそです。

記念品として“ジャカード織り”絵画の贈呈

TTIC20周年を記念して、本学から静岡県湖西市に残る豊田佐吉翁の生家で撮影した写真を(株)豊田自動織機製のジャカード織機 (パンチカードデータを用いて、任意画像の織物を作り出す先駆的発明) で織った絵画を贈呈しました。

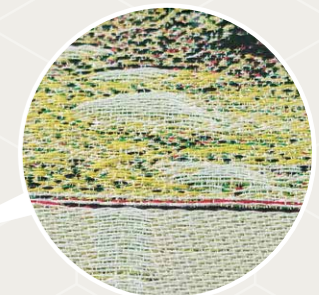
近くで見ると織物であることに驚きと感動の声があがりました。

豊田佐吉翁の言葉「障子を開けてみよ、外は広いぞ」は、トヨタの基本的な価値観として、現在でもよく語られています。進取の精神を大切にしている豊田工業大学とTTICは、この言葉の価値を共有している姉妹校であり、この言葉を織物に表現した作品は、両校の架け橋として大切に飾られます。

理事長から贈呈にあたり、両校の歴史や織物に込めた思いを伝え、盛況のうちにレセプションを終えました。



絵画に込められた思いを伝える増田理事長 (左) とお披露目をする増田理事長とターク学長 (右) *この織物は、写真家 三好和義氏の写真をもとに織られたものです。

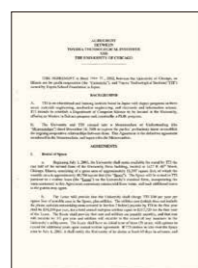


ジャカード織機で織った絵画を贈呈しました。近くで見ると織物であることに驚きと感動の声があがりました。

開学20周年までの経緯

(参考 / <https://www.ttic.edu/timeline/>)

- 2001年 2月 ● シカゴ大学と提携協定締結 / 豊田達郎理事長就任 (10月)
- 2002年10月 ● イリノイ州高等教育局より大学設置認可取得
- 2003年 8月 ● イリノイ州高等教育局より学位授与権認可取得
- 2003年 9月 ● 開学、初代学長に豊田工業大学永澤満学長が就任 (兼務)
- 2009年10月 ● 米国アクレディテーション取得
- 2010年10月 ● ライス学部長が暫定学長就任
- 2013年 4月 ● 古井貞照学長就任 (東京工業大学名誉教授)
- 2013年10月 ● 瀧本正民トヨタ学園理事長が理事長就任 (兼務)
- 2019年 7月 ● ターク学長就任、古井貞照理事長就任
- 2021年 5月 ● グリムソン理事長就任 (MIT副学長)
- 2023年10月 ● 開学20周年



シカゴ大学との連携覚書

協定留学制度

TTICへの協定留学

本学の大学院生を対象とした協定留学制度を設けています。通常は3カ月間 (1クォーター) 滞在し、2科目程度を履修します。科目数は少なくとも内容は濃く、難度の高い課題が毎週出されるので、単位修得には相当の努力が必要ですが、帰国した学生の多くが「貴重な経験ができた」と語っています。世界各国から集まる優秀な学生とともに学ぶことで、人間的にも大きく成長できます。また留学中はTTICが開設している科目だけでなく、シカゴ大学が開設している科目も履修することができます。情報基礎理論の分野の研究を深めたい大学院生はもちろん、他分野の最先端にふれたい大学院生にとってもこの留学は大きなチャンスとなります。

充実した二つの支援制度

本学とTTICの交流・連携強化を図るべく二つの奨学金制度を設け、協定留学生を支援しています。「豊田達郎奨学金」は、申請に基づいて留学に必要な渡航費・滞在費を支給します。「豊田奨学金」は、審査に基づいて月額10万円を上限に無利子で貸与するものです。また、将来TTIC協定留学を希望する人に対して学部在学中から学力と英語力の段階的な養成をサポートする「TTIC留学奨励制度」を設けています。

多岐に渡る学び、様々な交流は過去のADVANCEでもご紹介しています。▶



これまでの記事をご覧ください。



本学の研究プロジェクトや、研究室での研究内容について紹介していくコーナーです。先生方は日々どのような研究をしているのだろうか？そんな疑問に答えるべく、分かりやすく研究内容を解説していただきます。

5回目となる今回は、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構 (NEDO) の「先導研究プログラム/エネルギー・環境分野における革新的技術の国際共同研究開発」事業において、2023年11月末に契約締結し、委託事業が始まったばかりのプロジェクトについて、研究代表者を務める半田太郎教授 (流体工学研究室) に教えていただきます。

研究プロジェクト名 ▶ 航空機の高効率・高性能化を目指した気流制御デバイスの国際研究開発

航空機の飛躍的な燃費向上につながる新技術を目指して



■ これまでにない高性能なデバイスの開発

このプロジェクトでは、これまで本学で研究開発を進めてきた数十kHzの高周波で鳥の翼のような動きをする噴流を発生するデバイスを用いて流速数百m/sの高速気流を制御する技術を開発します。私たちは、このデバイスから発生する噴流 (ジェット) をフラッピングジェットと呼んでいます。本デバイスを用いることで航空機から発生する空力騒音の低減が可能となります。また、現在の旅客機には渦発生器と呼ばれる突起のようなものが翼の表面に設置されていますが、これは翼の上に現れる衝撃波が振動して旅客機が危険な状態に陥らないようにするための安全装置の役割を果たしています。しかしながら、渦発生器は旅客機の定常飛行時には必要がないだけでなく、むしろ空力抵抗の原因となります。開発したデバイスは定常飛行時には抵抗とはならず、制御が必要などきだけ駆動すれば良いので、旅客機の燃費を向上させることができます。さらに、このデバイスを上手に配置して気流を制御すれば、フラップなどの高揚力装置をその性能を落とすことなく軽量化することも可能になり、これによっても旅客機の燃費向上に貢献できると考えています。現在、旅客機の周りに現れるような高速気流中でのデバイスの振る舞いを、レーザーを用いて流れを可視化計測することで明らかにする研究に取り組んでいます。可視化計測結果から、デバイスの最適な駆動条件や配置を明らかにすることで、航空機の抵抗低減・軽量化・低騒音化技術においてブレークスルーを実現したいと考えています。

■ 国際共同研究開発の必要性

本研究グループが開発・最適化したデバイスを実際の航空機に適用する場合、実機の気流と同様の条件 (相似則が成り立つ条件) にて本デバイスが性能を発揮することを実証する必要がありますが、日本の国内では実機の気流を再現できる風洞がありません。そこで、本プロジェクトではドイツ航空宇宙センター (DLR) との国際共同研究により、同研究所が保有するユニークな設備である実機レイノルズ数風洞 (低温ロードビークチューブ風洞) を使用することで、実機の気流と同等の条件で試験を実施できます。実機の気流条件におけるデバイスの性能を評価し、本デバイスの次世代航空機への実装を目指します。

■ 2050年カーボンニュートラルへの貢献

低炭素社会・持続可能社会の実現に向けた取り組みが世界的に進められています。日本政府の掲げる「2050年カーボンニュートラルに伴うグリーン成長戦略」の(10)『航空機産業』においては、次世代航空機 (電動航空機や水素航空機など) の市場拡大により、CO₂排出削減が重要な課題の一つになります。提案する制御技術が航空機の燃費向上および低騒音化につながるよう研究開発を進め、わが国の航空機産業の発展に貢献していきたいと考えています。

半田 太郎教授はこんな人!

趣味・特技は何ですか? 休日はどのように過ごしていますか?

オリエンテーリングというスポーツをしています。休日は近隣で開催される大会に参加し、地図とコンパスを手に森の中や公園内を走っています (成績はいつも下位の方です)。オリエンテーリング大会のない休日はランニングをしています。ただ走るだけだと心が折れるので、最近は NaviTabi というスマートフォンのアプリを使って、楽しく走っています。

流体工学研究室
半田 太郎 教授



FILE-01 イベント開催

研究センターシンポジウム開催

「スマート情報技術研究センター・ジョイントCSセミナー」「スマートエネルギー技術研究センター」「スマートビークル研究センター」のシンポジウムを開催しました。

各シンポジウムでは、各界の第一線で活躍する講演者を招き、最先端の研究を紹介いただくとともに、各センターから直近の成果報告が行われました。



	招待講演タイトル	招待講演者
10/12 第3回スマート情報技術研究センターシンポジウム/第19回ジョイントCSセミナー /【ハイブリッド開催】		
招待講演①	Robots that Understand Language: A Whirlwind Tour from Rule-based Parsers to Generative Models	Toyota Technological Institute at Chicago Associate Professor Matthew Walter氏
招待講演②	情報技術とロボットが自律的に科学的知見を発見する時代がやってきた!	東京大学大学院 理学系研究科 化学専攻 教授 一杉 太郎氏
招待講演③	脳波に基づく感性評価、ブレインコンピュータインターフェース	慶應義塾大学 理工学部 システムデザイン工学科 教授 満倉 靖恵氏
10/19 第15回スマートエネルギー技術研究センターシンポジウム /後援:応用物理学会 東海支部 /【対面開催】		
招待講演①	世界のエネルギーハーベスティング実用化の最新動向と将来展望	株式会社NTTデータ経営研究所 社会・環境戦略コンサルティングユニット シニアマネージャー 竹内 敬治氏
招待講演②	光触媒による大型太陽光水素プラントの構築	東京大学特別教授室堂免研究室 特任上席研究員 山田 太郎氏
11/2 第13回スマートビークル研究センターシンポジウム /【ハイブリッド開催】		
招待講演①	宇宙工学×情報科学による 将来型宇宙輸送・推進システムの最適化	九州大学 大学院工学研究院 航空宇宙工学部門 准教授 小川 秀朗氏
招待講演②	超電導リニアと中央新幹線	東海旅客鉄道株式会社 リニア開発本部 担当部長 北野 淳一氏

FILE-02 イベント開催

産官学オープンラボ2023~時流に先んじて時代を切り拓く

本学全体の研究活動・成果を広く紹介する「産官学オープンラボ」を開催 (12/7) し、学外から95名 (46社) が参加しました。今年はトヨタ自動車 (株) 水素ファクトリープレジデントである山形光正氏による「水素で未来を変えていこう!」と題した招待講演に加え、本学の4つの研究センターを含む全研究室・実験室を公開 (ポスターセッションを含む) しました。

また、本学の特色ある設備として、清浄度クラス100のクリーンルームやモノづくりの原点を学べる工作機械が揃った創造性開発工房の視察ツアーを実施しました。

ポスターセッションや研究室公開では、具体的な内容に踏み込んだ活発な質疑応答が行われました。

本学では、研究活動・成果の発信を通じて、産学官連携活動に取り組んでいます。



FILE-03 教育活動

学部3年次の必修科目「創造性開発セミナー」の最終発表会を開催しました。

本科目は、主専攻 (機械/電子情報/物質) の異なる6~7名が力を合わせて、創造性を要する課題の解決に向けて、各人が自らの発想力と実現力を鍛えることを目的としており、既知の現象の理解を目的とした旧来の学生実験とは大きく異なります。

◎課題: AIを活用した新商品 (学生の勉学作業を支援する照明ロボット) を企画する。

◎作成: 課題を解決する部品やプログラムを駆使して期限までに作成する。

◎発表会: グループごとに工夫を凝らしたアイデアをプレゼンし、互いに評価する。

14チームそれぞれが、これまでに学習してきた工学知識や機械設計・プログラミングの技術を駆使し、全員が協力することで課題解決に取り組みました!

新商品の企画から開発・作成、費用を

踏まえた販売価格の設定までを体験する実習です。



優勝チームの作品: 商品名は「OpenSleep」眠りを開く、という意味で、絶対に眠らせない!眠ったら絶対に起こす!というコンセプトで「集中力の維持」と「居眠り防止」機能を備えた照明です。

FILE-04 イベント開催

2023年度公開講座(名古屋市天白生涯学習センター共催)を開催しました(10/14)

年 1回開催している2023年度の豊田工業大学公開講座を開催しました。本公開講座は名古屋市天白生涯学習センターとの共催企画として、10年以上にわたり開催しており、天白区の水野区長をはじめ近隣の方々100名を超える老若男女に参加いただきました。

今年のテーマは『住み続けられるまちづくり～モビリティを活かした社会課題の解決策～』と題して、本学大学院 制御システム研究室の川西通裕准教授による「次世代の空モビリティと

エネルギーインフラの課題と解決策」と、招待講演として、一般財団法人日本自動車研究所の鎌田実所長(東京大学名誉教授)をお招きし、「モビリティとまちづくりの話題」に関するご講演をいただきました。

天白区長(写真中央)と講演者を囲んで記念撮影
講師 川西先生(写真右端) 鎌田氏(右から3人目)



当日の様子をご覧ください。



FILE-05 イベント開催

南山大学・豊田工業大学連携講演会(12/3)

南 山大学・豊田工業大学連携講演会を南山大学R棟フラッテンホールにて開催し、164名が聴講しました。今回は『「時間」と向き合う科学を探究する』をテーマに、本学からは、藤貴夫教授(レーザ科学研究室)が、「超高速光科学の世界」と題し、南山大学から

は、上峯篤史准教授(人類文化学科)が、「時をかける考古」と題して、講演しました。両学の連携姿勢と研究成果を広く社会に周知し、地域の方々の知識拡大に貢献することを目的とした本講演会は、今回で18回目を迎えました。次回は本学での開催を予定しています。



人事紹介

新任



エネルギー材料研究室
平田 圭佑 助教

2023年9月 豊田工業大学大学院 博士後期課程 修了
2023年10月 豊田工業大学 PD研究室
2023年12月 本学助教に着任

主な研究分野

伝導電子の運動や原子の振動といった微視的観点から極めて低い熱伝導度を呈する材料を解析し、特殊な熱伝導度を支配する起源を解明することで熱伝導度を制御・設計するための指針構築を目指します。それを利用し、省エネルギー社会の構築に貢献できる革新的な高性能熱利用素子(熱電発電素子、熱ダイオード、熱流スイッチ等)の開発にも取り組みます。

新任



機能半導体デバイス研究室
沼田 敏典 教授

1997年～ 株式会社東芝(現キオクシア)株式会社メモリ技術研究所グループ長
2021年～ 東京都市大学 非常勤講師(兼職)
2023年～ 横浜国立大学 非常勤講師(兼職)
2024年1月 本学教授に着任

主な研究分野

LSIの主要素子であるシリコンMOSトランジスタの高性能化技術や、NANDフラッシュメモリなど大容量ストレージ向け先端技術を研究してまいりました。AIや自動運転といったエマージング技術に、半導体デバイスはさらなる進展が求められます。未来の課題克服に資する技術提案を目標に、トランジスタに強誘電体材料を機能融合するなど、新たな半導体デバイスの可能性を探究してまいります。

訃報

保健室

井藤 美和 看護師 ご逝去

本学 看護師の井藤美和さんが2023年11月に病気のため逝去されました。故井藤美和さんの生前のご活躍に教職員ならびに学生一同、敬意と感謝の意を表し、謹んでご冥福をお祈りいたします。

編集後記

「タグライン」と「ステートメント」を制定しました。私たちの想いを発信していますので、ぜひWeb検索(「進むなら足跡のない方へ。」)してみてください。2024年1月1日に発生した能登半島地震で被災された皆様に謹んでお見舞い申し上げます。